

事後評価シート

コード 2-1-1	事務事業名 田無庁舎維持管理	所管部課 総務部管財課
--------------	-------------------	----------------

事務事業の概要	事務事業の目的 田無庁舎は、老朽化が進んでいる設備であるが、利用する来庁者及び職員 の安全性を確保し、最適な環境で利用できるよう良好な環境の維持に努 める。	事業の区分 <input type="checkbox"/> 総合計画 <input type="checkbox"/> 行革項目 <input checked="" type="checkbox"/> その他の事務事業
	実施内容、実施方法 清掃、警備、施設監視・各種機器・設備の保守点検等を行い維持管理を行っ ている。 (清掃、警備、施設監視維持管理は毎日。エレベーター・エスカレーターは毎月点 検、防災設備点検年2回、衛生環境維持により空気環境測定年6回、その他ビル管 理法等に基づき点検報告を行っている。)	根拠法令等 ビル管理法 消防法
事業開始時期 合併前から 実施形態 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 ()		

評価指標の設定	活動指標名 1日あたりの維持管理経費	活動指標の考え方(定義) 1日あたりの維持管理に要する経費
	補修・工事の営繕費	庁舎全体の営繕費
	成果指標名 1次 補修要望達成率	成果指標の考え方(定義) 1次 要望、苦情に対応した修繕率
	1次 経年劣化の補修・工事件数	1次 総合計画等で位置づけのない経年劣化による補修・工事件数
	2次 満足度率	2次 要望、苦情に対応して修繕した結果の満足度率

		単位	15年度	16年度	17年度	18年度	
事務事業データ	事業費(A)	千円	269,747	264,493	198,045	151,068	
	国庫支出金						
	都支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		269,747	264,493	198,045	151,068	
	所要人員(B)	人	0.75	0.75	0.75	0.75	
	人件費(C)=平均給与×(B)	千円	6,205	6,246	6,139	6,139	
	総コスト(D)=(A)+(C)	千円	275,952	270,739	204,184	157,207	
	単位当たりコスト (E)=(D)/ (日数)	千円	756	742	559	431	
	歳入	千円					
	活動指標	目標値	千円			559	413
		実績値	千円	739	724	542	
	活動指標	目標値	千円			64,246	9,537
実績値		千円	121,932	125,153	63,967		
1次成果指標	目標値	率			100	100	
	実績値	率	100	100	100		
1次成果指標	目標値	件数			45	40	
	実績値	件数	74	55	43		
2次成果指標	目標値	率			100	100	
	実績値	率	80	80	80		

事業環境	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)	市長への意見、市民メール等で意見・苦情がある。(各課の案内標示が見にく い。各フロアーの時計が何処にあるかわからない。1階ロビーが暗い。駐車場・ 駐輪場が混み合っている等)
	26市のサービス水準との比較 (平均値、本市の順位など)	各市とも相応に対応している。
	運営上の制約条件・ 外部要因等	なし

コード 2-1-1	事務事業名 田無庁舎維持管理	所管部課 総務部管財課
--------------	-------------------	----------------

【事業所管部評価】

検証項目	選択基準	ランク	選択理由、特記事項等
1 目的の適切さ・目標	目的の妥当性 2 上位施策と目的が一部合致しているが、施策に対する貢献度は他の事業と比較して低い	▼	2 最適な庁舎環境にすることで利用者への快適性・利便性の向上に努める。
	目標の妥当性 2 目標を定量的に設定できないが、定性的には設定している	▼	
	緊急性 4 今後しばらくの間、少しずつでも継続して実施する必要がある	▼	
2 市が関与する必要性	法的義務性 5 法律で実施することが義務づけられている	▼	5 多くの市民等が集まる場所である。
	必要性 4 安全・安心・健康な市民生活の水準の維持に不可欠なサービスである	▼	
	民間との役割分担 1 民間団体が同種のサービスを十分提供し、質または量が上回っている	▼	
3 内容の適切さ	ニーズ 5 市民(庁内)ニーズに関係なく実施する必要がある	▼	5 誰もが利用しやすいよう安全で快適な環境整備に心がけた。
	規模・方法の妥当性 5 事業規模や方法は、対象者等の具体的なニーズに基づき毎年見直している	▼	
	公平性 5 直接の対象は、すべての市民または団体である	▼	
4 実施手段の適切さ	有効性 3 質・水準の改善に積極的に取り組んできているが、成果の向上はあまり期待できない	▼	3 適正な維持管理は経費節減や市民サービス等に寄与することになった。
	効率性 3 既に他の実施主体を一部活用し、コスト低減に取り組んでいる	▼	
	独自性 3 国や都に同種の目的を有する(類似・重複を含む)他の事務事業がある	▼	
合計		42	

	評価結果	判断理由、説明等
総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	庁舎の老朽化による工事や各種要望・苦情に対する措置を行い、適切な維持管理を図った。一方、庁舎管理費については委託料の見直し等を行い節減を図った。

18年度における改善点	経年劣化により機能低下している各種設備の改修が多くなることが予測されることから、調査検証し効率的にかつ、平準的に補修を行う。一方庁舎の各種エネルギーの節約については尚一層、努力していきたい。
-------------	---

二次評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	来年度以降に予定される公共施設白書及び施設保全計画の策定に合わせて、田無・保谷両庁舎共通の管理の考え方、長期計画の構築が必要である。同時に、最大の課題である二庁舎体制の見直し、新体制の検討について早期に着手すべきと考える。ランニングコストの縮減については、現行においても一定の評価ができるが、更に努力を願いたい。
------	---	--

行革本部評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	田無・保谷両庁舎においては、公共施設白書及び施設保全計画の策定に合わせた中長期的な計画に基づき、庁舎管理がなされるべきである。今後は、二庁舎体制の見直しも含め、将来的な庁舎のあり方等を検討する必要がある。
--------	---	--